

(3) 北野田^{きたのだびーいせき}B遺跡

所在地 豊田市蕪木町北野田地内
(北緯 35 度 1 分 33 秒
東経 137 度 17 分 15 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業

調査期間 平成 29 年 10 月～平成 30 年 1 月

調査面積 800 m²

担当者 尾崎綾亮 岡田浩季

調査経過 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う記録保存発掘調査を愛知県企業庁より委託を受けて実施した。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万地形図「東大沼」)

立地と環境 本遺跡は郡界川の支流である蕪木川流域に位置し、蕪木川の北側に尾根を連ねる丘陵部の南向き緩斜面部に立地している。調査前の状況は、周囲を尾根に囲まれた植樹林帯であった。周辺の遺跡として、北西方向に北野田 A 遺跡、南には北野田 C 遺跡が存在している。

調査の概要 調査区は南端から北に向かって階段状を呈している。この段差は近世以降の耕作や近代の土地改変によって造成された。大規模な削平を受けたことによって、近世以前の遺構・遺物は極めて希薄であった。

わずかながらに残る遺構として、土坑 (051SK)、近代の炭焼窯 (001SY、033SY) を確認することができた。

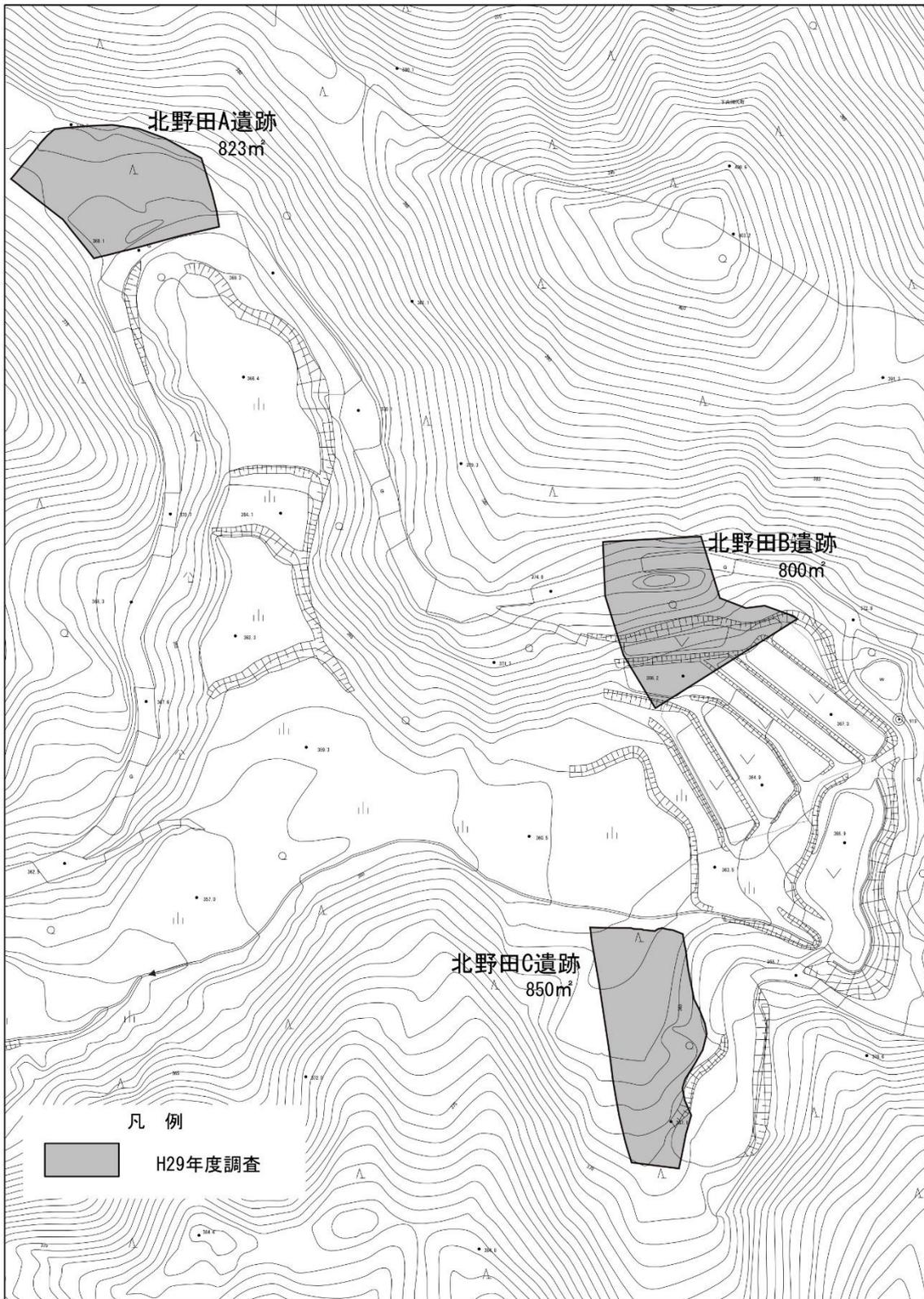
土坑 (051SK) は、調査区の下から 2 段目と 3 段目の段の間にある緩斜面地で確認した。埋土から戦国時代の羽釜一個体がまとまって出土している。

近代の炭焼窯 (001SY・033SY) はそれぞれ調査区の下から 2 段目、4 段目で確認した。両遺構ともに遺物は出土しなかった。

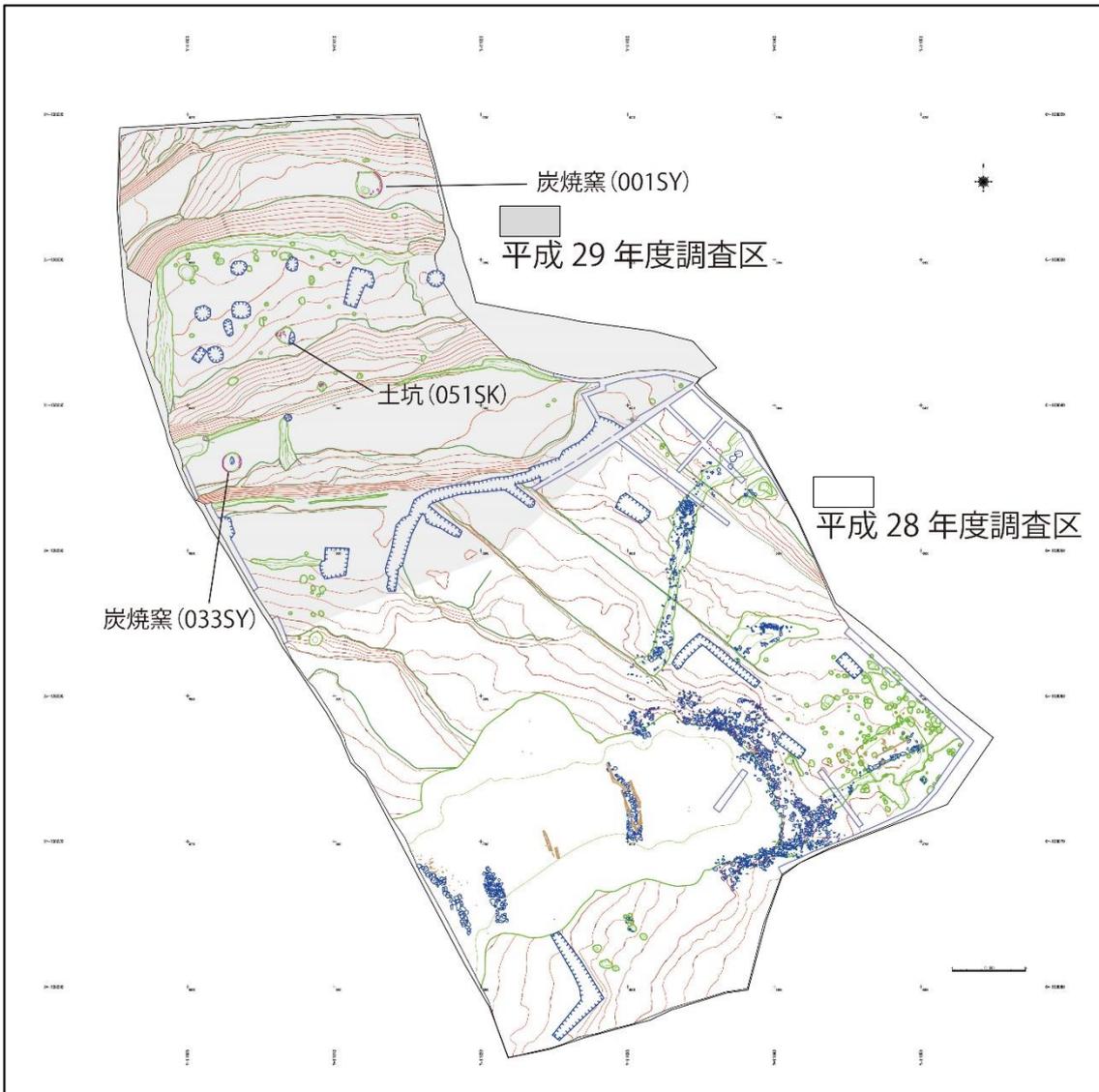
まとめ 昨年度調査区では中世の遺構、遺物を多く確認できたため、今年度も期待して調査に臨んだが、大規模な削平を受けていたことによって近世以前の遺構、遺物をほとんど確認することはできなかった。

しかし戦国時代の土坑 (051SK) を確認できたことによってこの時期にも斜面地を削り込み、造成を行っていたことが分かった。この土坑周辺の遺構や遺構外の出土遺物の検討を重ねていくことによって、開発の実態に迫ってきたい。

(尾崎綾亮)



北野田 B 遺跡位置図 (1:1,000)



調査区全体図 (1:250)



北野田 B 遺跡全景（北から）



土坑（051SK）掘削状況



戦国時代の羽釜（051SK）出土状況



炭焼窯（001SY）



炭焼窯（033SY）